

大学入学共通テストおよび国公立大二次・私大

大学入試

分析と対策

2022
令和4年度

英語

学校法人 河合塾
英語科講師 江本 祐一

林啓館

この冊子の内容は次の URL からアクセスできます
<https://www.shinko-keirin.co.jp/keirinkan/kou/english/>

(1) 概要

共通テスト2年目の2022年度の第1日程（以下、特に断りのない限り、第1日程についての記述になっている）は、基本的に2021年度同様の出題であった。「様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことを狙いとする」「生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問う」という出題方針に従った出題で、リーディングでは全問ビジュアル情報を伴う読解問題が出題され、リスニングでは第3問以降は読み上げ回数が1回（100点中59点）の問題が出題された。選択肢などを含めたリーディングの語数は6,044語で、2021年度の5,478語から500語程度増加している（2021年度は、2020年度のセンター試験から1,000語以上増加していた）。リスニングの読み上げ語数は1,532語で、これは2021年度の1,528語とほぼ同じ、また設問などの読むべき語数は562語で、これも2021年度とほぼ同じであった。マーク数はリーディングでは2021年度より1つ増えて47（増加したのは第6問A）に、リスニングは2021年度と同様に37であった。リスニングの第4問Aでは、試行調査テストで出題されていたが2021年度には出題のなかった出来事を時系列に並べる問題が出題された（2021年度はグラフの完成問題）。リーディング、リスニングとも難易度は2021年度とほぼ同じで、大学入試センター発表の平均点は、リーディングが61.80点、リスニングが58.45点で、いずれも2021年度の58.80点、56.16点から3点程度上がっている。リーディング、リスニングともイギリス英語が出題されている。また、本文の表現、読み上げられた表現を言い換えた選択肢が正解になる問題、複数箇所から集めた情報を元に正解を選ぶ問題が出題された個別の問題についての考察でみるように、このような問題の正答率は低い。なお、2021年度のリーディングの第6問A問3のように、現役生と卒業生の間で10%以上の正答率の差が生じた問題はなく、どの問題もその差は5%の範囲内に収まっていた。

(2) 筆記試験

第1問

A：料理本 B：ウェブサイト

Aは試行調査テストから続いていたメールのやり取り

を読み取る問題に代わって、料理本からの出題になった。Bは動物園の赤ちゃんキリンに名前をつけるコンテストに関するウェブサイトの情報の読み取り問題で、これまでと同様の出題。

第2問

A：利用説明書 B：学校新聞

Aは大学図書館の利用説明書（利用者のコメントつき）を読み設問に答える問題。試行調査テスト以降「事実」と「意見」を求める問題が各1問ずつ出題されてきたが、2022年度は「意見」を求める問題は出題されなかった。Bはペットを飼う家庭の国際比較を行った学校新聞の記事からの出題。2021年度に出題のあった、本文の情報に基づいて次に何をすべきか、というタイプの出題はなかった。第2問全体として設問がシンプルになった印象。

第3問

A：ブログ B：雑誌記事

Aは日本文化展に関するブログからの出題。2021年度は本文と案内図の情報から解答する問題が出題され、正答率が低かったが、2022年度はそのような出題はなく、正答率が高い（河合塾の再現答案分析による。以下同様）。Bは3つのイギリスの山を24時間以内に登頂する挑戦に関する記事の読み取り。比較的細かい情報の正確な読み取りが求められていた。

第4問 ブログ

大学新入生の家電購入に関する2つのブログ（広告と表を含む）の読み取り問題。2021年度のメールのやり取りと添付の時刻表、水族館の混雑度のグラフからの総合的判断を求める問題と比べると、取り組みやすい問題という印象であるが、2021年度は全体の正答率が7割を超えていたのに対し、2022年度は全体の正答率は5割程度で、特に問5（28、29）の正答率が低い。

問5 You have decided to buy a microwave from 28 because it is the cheapest. You have also decided to buy a television from 29 because it is the cheapest with a five-year warranty. (Choose one for each box from option ①~④.)

- ① Cut Price
- ② Great Buy
- ③ Second Hand
- ④ Value Saver

Second Hand Sale for New Students!



Television
2016 model
50 in. **\$250**



Vacuum Cleaner
2017 model
W 9 in. x L 14 in. x H 12 in. **\$30**



Rice Cooker
2018 model
W 11 in. x D 14 in. x H 8 in. **\$40**



Microwave
2019 model
1.1 cu. ft. 900 watts **\$85**



Kettle
2018 model
12 **\$5**

<https://secondhand.web>

Item	Cut Price	Great Buy	Value Saver
Rice Cooker (W 11 in. x D 14 in. x H 8 in.)	\$115	\$120	\$125
Television (50 in.)	\$300	\$295	\$305
Kettle (12)	\$15	\$18	\$20
Microwave (1.1 cu. ft. 900 watts)	\$88	\$90	\$95
Vacuum Cleaner (W 9 in. x L 14 in. x H 12 in.)	\$33	\$35	\$38

<https://save4unistu.com>

(投稿の本文は省略)

2022年大学入学共通テスト 英語 リーディング 第4問

電子レンジは、Lenの投稿にある中古販売店Second Handの広告によれば85ドル、Cindyの投稿にある大型家電量販店の価格表によれば、それぞれ88ドル、90ドル、95ドルで、Second Handが最安値に見えるが、実際にはCindyの投稿の第4段落第5文にGreat Buy provides ..., and students with proof of enrollment at a school get 10% off the price listed on the table above.とあることから、新入生であれば、Great Buyで90ドルで売られている電子レンジを10%引きの81ドルで買うことができ、これが最安値となる。Cindyの投稿のこの部分を考慮に入れず、③のSecond Handをマークした率は6割を超えていた。また、televisionについても同様で、5年保証付きの最安値は、Cindyの投稿の第4段落第3文にValue Saver provide one-year warranties on all household goods for free.及び第4文If the item is over \$300, the warranty is extended by four years.より、1年保証付きの305ドルのテレビに無料で4年分の保証が追加されて、これが5年保証付きの最安値となる。誤答として多かったのは①のCut Price(約35%)であるが、Cindyの投稿の第4段落最後の2文より、Cut Priceでは無料の保証はついておらず、価格の10%を払わなければならないので、330ドルとなり、5年保証をつけると最安値とはならない。28は、広告や価格表の数字をそのまま比較した誤り、29は計算が不正確だったための誤りである。2021年度は、時刻表、混み具合のグラフをみて、正確にその内容を読み取ることができれば、単純

な足し算で正解を得られたのに対して、2022年度は、英文中から必要な情報をみつけ出し、やや複雑な計算が必要なことで正答率が下がったのであろう。28は20%、29は37%という低い正答率だった。

第5問 伝記

テレビの発明者として特許権争いに勝利した人物に関する記事を読んで、プレゼンテーション用のメモを完成させる問題。2021年度同様に、出来事を時系列に並べる問題(33～36)が出題されているほか、タイトルの選択問題も出題されている。全体の正答率は6割程度。

第6問

A：論説文 B：論説文

Aは朝型人間と夜型人間に関する論説文を読み、要約メモを完成させる問題で、4つの設問に答える。ペア採点となる問4(42, 43)は35%程度の正答率。単独で見ると、いずれも5割程度の正答率であるが、どちらとも合わせて正しい選択肢を選ぶのは難しいようである。同様の傾向はプラスチックのリサイクル表示の意味を扱ったBにも言え、ペア採点の問3(47, 48)の正答率は45%程度。A問4、B問3ともに、かなりの長さの英文中の複数の箇所を考慮に入れて解答する必要があることが、正答率の低さの原因であろう。一見すると、B問3のほうを選択肢が複雑で、参照すべき箇所が多いために、こちらのほうが正答率が下がりそうだが、この問題は、実質的には「本文の内容と一致する選択肢を2つ選べ」という問題と同じで、本文を読みながら誤りを含む選択肢をチェックしていくという作業を行えば、正解が得られるのに対し、A問4は積極的に正しいものを複数箇所から選択しなければならない点で、解答しづらかったのであろう。

Your summary notes :

○ When Does the Day Begin for You?

○ Vocabulary

○ Definition of diurnal: 39

○ ⇔ opposite: nocturnal

○ The Main Points

○ • Not all of us fit easily into the common daytime schedule, but we are forced to follow it, especially when we are children.

○ • Some studies indicate that the most active time for each of us is part of our nature.

○ • Basically, 40.

○ • Perspectives keep changing with new research.

○ Interesting Details

○ • The Jewish and Christian religions, as well as Chinese time division, are referred to in the article in order to 41.

○ • Some studies show that 42 may set a person's internal clock and may be the explanation for differences in intelligence and 43.

2022年大学入学共通テスト 英語 リーディング 第6問

43に入る⑥ time of birthは第3段落第2文第6文が、44に入る③ behaviorは第5段落第7文が該当箇所である。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

総語数が6,000語を超え、さまざまな部分から情報を集めて正解を導き出さなければならぬ出題が含まれるために、速読力が必要と言えるかもしれないが、内容理解を伴わない速読力には意味がないことは言うまでもない。まずは、文法的理解に基づいた正確な読解力を養い、語彙力を高めていくことで、自然に英文が正確に早く読めるようになる、ということを目指すべきである。また、受験生になじみのない単語が含まれることが増えているが、全体の内容がわかれば問題にならない程度のものである。普段から、少しくらいならわからない単語があっても全体を読み切るようにトレーニングすることが必要であろう。

(3) リスニング試験

第1問

A : 短文の内容一致 B : 短文のイラスト選択

2021年度同様に、Aでは、短い発話を聞きその内容と合っている選択肢を選ぶ問題が4問出題されている。Bでは、短い発話を聞きその内容と合っているイラストを選ぶ問題が3問出題されている。第1問は音声は2回流される。全体の正答率は8割近いが、問3は4割程度の正答率だった。

第1問A

問3

- ① The speaker found his suitcase in London.
- ② The speaker has a map of London.
- ③ The speaker lost his suitcase in London.
- ④ The speaker needs to buy a map of London.

読み上げられた英文

M : I didn't lose my map of London. I've just found it in my suitcase.

2022年大学入学共通テスト 英語 リスニング 第1問

多かった誤答は①で、全体の3割程度。読み上げられた英文のitの指すものがわからなかった、あるいは、itが聞き取れなかった、ということが原因であろう。第1問は比較的解答しやすい問題が多いが、2021年度にも正答率の低い問題(問3、問4)があった。

第2問 対話文に一致するイラスト選択

短い対話文とそれに関する問いを聞き取り、その答えとして適切なイラストを選ぶ問題が4問出題されている。音声は2回流される。比較的解答しやすく、第2問全体の正答率は7割を超えていた。

第3問 対話文の内容一致

短い対話文を聞き取り、一致する選択肢を選ぶ問題が6問出題されている。第3問以降は音声は流されるのは1回のみ。全体の正答率は6割程度であったが、問17の正答率は3割程度だった。

第3問

問17 女性が男性と話をしています。

What does the man think about the concert?

- ① It should have lasted longer.
- ② It was as long as he expected.
- ③ The performance was rather poor.
- ④ The price could have been higher.

読み上げられた英文

W : How was the concert yesterday?

M : Well, I enjoyed the performance a lot, but the concert only lasted an hour.

W : Oh, that's kind of short. How much did you pay?

M : About 10,000 yen.

W : Wow, that's a lot! Do you think it was worth that much?

M : No, not really.

2022年大学入学共通テスト 英語 リスニング 第3問

昨日のコンサートについて尋ねられた男性は、「演奏は楽しかったが、1時間しかなかった」と答えているこ

とから、①が正解となるが、これを正解として選ぶためにはshould have done「…すべきだったのに」という表現が正しく理解できている必要がある。④を選んでいる割合も正解の①と同様に3割であったが、④は「値段はもっと高くてもよかった」の意味で、ここでもcould have doneの知識が前提となっている。1万円という値段を聞いた女性のWow, that's a lot!から、④を選んだようだが、文法の知識の重要性を今一度確認しておきたい。

第4問

A：イラスト並べ替え B：複数発言からの判断

Aでは、2021年度は、説明を聞き取りグラフの4つの項目を決定する問題が出題されていたが、2022年度は、4つのイラストを時系列に並べ替えるという試行調査テストで出題されていた問題が出題された。Bは2021年度同様に、4人の説明を聞き取り、示された条件に最も合うものを選ぶ問題。「選択肢は2回以上使ってもかまいません」という指示文があるのは2021年度と同じだが、2021年度とは異なり、実際に複数回使う選択肢があった。全体の正答率は8割近かった。

第5問 講義

2021年度同様に、講義を聞きワークシートを完成させる問題、講義の内容一致問題、グラフつきの内容一致問題が出題されている。全体の正答率は2021年度が6割近かったのに対して、2022年度は4割にも満たない。2021年度は幸福感がテーマであったのに対して、2022年度はgig workという受験生にはなじみのないテーマであったことが原因であろう。そのためか、gig workの定義を問う問27の正答率が2割台で最も低くなっている。また、講義の続きを聞いて答える問題では、続きの講義内容とグラフの情報は、gig workと関連性はあるものの解答と直接は結びつかないという点も、答えづかった原因であると考えられる。リスニング問題を通して、新しい概念を学び、それについての設問に答える力が問われる難問であった。

第6問

A：対話文内容一致 B：対話文内容一致とグラフ選択

A、Bともに2021年度と同様の出題。Aでは、料理のレシピに関する2人の会話を聞き、それぞれの発話者の発言の要旨に関する内容一致問題が出題されている。正答率はいずれも7割を超えている。Bは4人の会話を聞き、それぞれの発話者がエコリズムに賛成か反対かを判断する問題（問36）と、Brianの発言を表している図表を選ぶ問題（問37）が出題されている。2021年度

は問36の正答率は1割程度であったのに対して、2022年度は6割近い正答率であった。4人の会話で音声を頼りに賛否を聞き分けるのは大変な作業だが、2021年度と比べると聞き取りやすかったこと、多くの受験生がこの問題に対して十分な対策をしてきたことが、正答率が上がった原因であろう。私個人は、問36の「エコリズム」という言葉だけをみて、問37のグラフを見ないで音声を聞き始めたところ、red coralが聞き取れなかった。やはり設問の先読み（先見）は必要であることを痛感した。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

本文の英語がそのまま解答になるわけではなく、1か所だけから解答が決まるわけではない点は、リーディング、リスニングに共通した特徴である。リーディングの問題のほうが、読み直しができる分、解答しづらい問題となっている点は異なるが、実質的な違いはほとんどない。その意味では、リーディングの問題をリーディングの問題として扱った後、本文を音声化して、リスニング問題として活用する、といった活用法も考えられる。リーディング問題の英文は分量が多いが、一度リーディング問題として扱った後であれば、リスニング対策として有効なのではないかと思う。

2

国公立二次試験

(1) 概要

2022年度の主要な国公立大入試で出題形式や内容について目についたものを取り上げる。

東京大：毎年のように出題形式に細かい変化がみられるが、2022年度は3つのリスニング問題がばらばらのテーマで出題された点が2021年度からの変更点。河合塾の分析によれば、1(B)の語句整序問題と4(A)の誤文指摘問題、特に25の正答率が低く、いずれも1割台であったが、4(A)全体の正答率も2021年度から大幅に下がったようである。また、自由英作文では「芸術は社会の役に立つべきだ」という主張に対して自分の意見を書く問題が出題された。意見論述の問題は東京大としては久しぶりの出題である。

京都大：2022年度は、2題の読解問題の出題がいずれも英文和訳2問、説明問題1問であった。2021年度のⅢは19世紀末の英文（一部リライトあり）の出題であったのに対して、2022年度は、Ⅰは2021年度、Ⅱは2020年度に出版された英文からの出題であり、

ⅠはAnthropocene「人新世」という新しいテーマを扱う英文であった。Ⅲの和文英訳では「…もまた捨てがたい」「目の保養になる」「悩み事もどこか遠くに感じられ」「心がふっと軽くなる」など、日本文の意味を正しく理解していなければ英訳できない京都大らしい問題が出題された。Ⅳの自由英作文では、京都大としては初めてのテーマ論述型の自由英作文が出題された。

北海道大：2021年度から出題形式に変化はないが、読解問題の英文量がかなり増えた。北海道大の特徴的な出題である③読解問題と自由英作文の融合問題、④会話文の要約問題も引き続き出題されている。

東北大：2021年度同様に下線部和訳と日本語による内容説明問題が出題の中心。1,000語を超えるⅠの英文は、東北大では珍しく「環境難民」という時事的な問題を扱ったものであった。Ⅲの自由英作文は対話文の読解問題との融合で、表の情報をもとに自分の意見を述べる問題が2021年度に続いて出題された。Ⅳでは、従来は日本文の意味をしっかりと理解したうえでの英訳が必要な和文英訳問題が出題されていたが、2022年度は、語句整序、和文英訳、日本文の意味を表す英文の選択という問題が出題された。

一橋大：従来2題あった長文問題が2021年度に1,500語近い1つの長文問題に統合されたが、2022年度も同様の出題。また、ここ数年出題形式が変わっている自由英作文は、2019年度以来の3つの画像から1つを選んでその内容を描写する形式の問題が出題された。

名古屋大：2021年度にはⅠの長文中に自由英作文が出題されたが、2022年度はⅠ（読解問題）とⅢ（対話文問題）に和文英訳が出題された。和文英訳は2018年度以来の出題である。そのほか、2019年度以来の語句整序問題、文整序問題が出題された。Ⅳの図表を用いた自由英作文は例年通りの出題であった。

大阪大：いろいろな大学で出題形式が変わる中、際立った変化のまったくない出題が続いているが、2022年度も同様であった。年々②の読解問題が取り組みやすくなっている。例年は難問であったⅠの下線部和訳問題も、2022年度は取り組みやすくなった印象である。

広島大：2021年度に会話文問題の出題がなくなり、大問数が5題から4題になると同時に、Ⅰの要約問題、Ⅱの読解問題で出題形式が変わったが、2022年度も同様の出題。Ⅰの要約問題は各パラグラフをまとめるという形式だが、字数が30字から100字へと大幅に増加した。Ⅱの読解問題では、「物語は相互理解を深める」「物語は人を動かす」という2つの英文を照合し

ながら読ませるという形式の問題が出題された。例年社会問題を扱うことの多い自由英作文では、今年度はⅢ「現代社会で成功するためのスキル」、Ⅳ「広島平和記念資料館の入館者の変遷」というテーマでの出題だった。

九州大：2021年度に出題された英問英答問題は出題されず、下線部和訳問題や客観式の問題が復活した。また、[4]では多文化社会の長所・短所を論じる自由英作文、[5]ではUFOの目撃件数を示すグラフを説明する自由英作文が出題された。

その他の大学では、小樽商科大は解答用紙には英語以外書くことのない出題が続いている。昨年度出題された絵を描いて答える問題の出題はなくなった。名古屋工業大では、合教科・合科目的な問題として、数学と英語の合教科を意識した出題が続いている。また、神戸大では、2021年度に出題のなくなった小説文が復活した。また、出題の一部に誤りがあり、受験者全員の解答を正解とする旨の発表があった。大阪市立大と大阪府立大が統合されて、2022年度に新たに開学した大阪公立大の問題は、発表されていたサンプル問題と同じで、旧大阪市立大の問題から大問を1つ減らした読解問題2題、和文英訳問題（学部・学科により選択）1題という構成。和訳、空所補充、語句の言い換え、内容一致など、一般的な問題の出題であった。

（2）読解問題

下線部和訳問題の比重はここ数年減少傾向にあるとは言え、主要な国公立大では必須の出題形式である点に変わりはないし、先にみた通り、いったんは姿を消した和訳問題を改めて出題する大学も見られる。いろいろと批判はあるものの、やはり受験生の英語力を問ううえでは有効な出題形式と言えるだろう。ここでは、神戸大のⅠの下線部(3)を紹介する。

(3) They migrated less often, missing out on feeding opportunities which, due to their role as recyclers, could have wider effects on the ecosystem

問4 下線部(3)を、Theyが指している内容を明らかにしたうえで日本語に訳しなさい。

解答例

ハマトビムシは移動の頻度が減ってエサを食べる機会を逃すことになったのだが、そのことは、ハマトビムシに栄養を再循環させる役割が

あるので、より広範な影響を生態系に及ぼすかもしれない。

この問題の難しいところは、whichの先行詞の確定である。普通に読めばfeeding opportunitiesであるが、それでは文意を成さず、先行詞は前に述べられている内容を指すと考えるべきである。このような場合、関係代名詞節は非制限用法になるのが規範的ではあるが、本問の場合、直後にdue to ...の句が挿入されているために、カンマの反復を嫌ってこのような形になったのであろう。規範的な文法に従った読みが重要なことは言うまでもないが、文脈を加味した柔軟な読みが求められている。

(3) 表現力

全体的にみて、2022年度も長文読解や対話文問題に自由英作文を組み込んだ融合問題が増えている印象である。従来型の和文英訳問題よりも自由英作文の問題の出題のほうが多くなっている。昨年度も本稿で書いたように、現役受験生を高2、高3とみてきた印象では、彼らは自由英作文の問題に対しては以前の受験生のような抵抗を感じることなく取り組むが、以前の受験生と比べると英語表現の力そのものは低下していて、和文英訳問題に苦戦する、という印象である。和文英訳は自由英作文で正しい英文を書くための前提と言えるので、従来型の和文英訳の練習も不可欠であろう。

3

私立大学

私大の出題形式は大学や学部で千差万別であるが、読解問題では、空所補充、下線部の言い換え、内容一致などが出題の中心である。また、慶應義塾大、早稲田大などを中心に一部の難度の高い大学で、主に「読む・書く」を中心とした技能統合問題が出題されている。空所補充や言い換え問題では、単語や熟語等の語彙的知識をそのまま問う場合と、文意を把握したうえで未知の（あるいは難解な）語句の意味を推測する必要がある場合があるので、基本的な語彙力の強化と英文内容の理解力を高めておく必要があるという点では、国公立大の場合と違いはない。国公立・私立を問わず、読解問題の長文化が進んでいるが、客観問題の出題が多い私大の問題は、1題の英文量が多いだけでなく問題数が多いのも特徴で、限られた時間で設問に答えるトレーニングが絶対に不可欠である。また、ある意味でトリッキーでパズル的な、言いようによっては運に左右されるような問題が出題され

ることもある。いずれにしても、大学間で出題形式に大きな差がある。安易に過去問中心の学習を進めることはできないが、ある程度基礎的な力を身につけたら、過去問演習を中心に学習を進めるべきであろう。ただし、過去問がもう一度出題される可能性はないと言っているので、その大学の出題傾向に似た他大学の過去問、特に難度の高い大学の読解問題対策としては、過去問に出典として挙げられている出版物なり、ウェブページなりにあたってみるのもいいかもしれない。最後に、2021年度から総合問題の一部として英語が出題されている早稲田大の政経学部の問題について触れておきたい。2021年度は英語の問題としての範疇に収まるものであったのに対して、2022年度は、ギリシアの経済破綻に関する英文（登場人物をグループ分けする問題が出題されているが、なじみの薄いギリシア人の名前であるうえに、よく似た名前が出てきて、かなり注意力を要する）に付された設問5は、本文から派生する問題ではあるが、本文の理解とは無関係な「ベンフォードの法則」に関する問題が出題されていた。日本文による説明を読んで、この法則を理解し、これを適用する問題で、累乗の計算が前提となっている。

江本 祐一（えもと・ゆういち）

東大、京大、医進の授業を中心に担当。京大系のテキスト、京大オープン（第2回チーフ）作成に携わる。出版物は「英語暗唱文ターゲット450」（旺文社）、「入試英単語の王道」（河合出版・共著）など。



—— 知が啓く。——

啓林館

URL <https://www.shinko-keirin.co.jp/>

令和 5 教 内容解説資料

本 社	〒 543-0052	大阪市天王寺区大道 4 丁目 3 番 25 号	電話 (06)6779-1531	FAX(06)6779-5011
東京支社	〒 112-0013	東京都文京区音羽 2 丁目 10 番 2 号日本生命音羽ビル 4 階	電話 (03)3814-2151	FAX(03)3814-2159
北海道支社	〒 060-0062	札幌市中央区南二条西 9 丁目 1 番 2 号サンケン札幌ビル 1 階	電話 (011)271-2022	FAX(011)271-2023
東海支社	〒 460-0002	名古屋市中区丸の内 1 丁目 15 番 20 号 ie 丸の内ビルディング 1 階	電話 (052)231-0125	FAX(052)231-0055
広島支社	〒 732-0052	広島市東区光町 1 丁目 7 番 11 号広島 CD ビル 5 階	電話 (082)261-7246	FAX(082)261-5400
九州支社	〒 810-0022	福岡市中央区薬院 1 丁目 5 番 6 号ハイヒルズビル 5 階	電話 (092)725-6677	FAX(092)725-6680